

普及活動情勢報告（令和8年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

水田維持管理対策の進捗はどうなってる？ ～J A土佐くろしお管内3首長会で報告～



水田維持管理対策の進捗状況を説明する普及指導員

8月21日、『J A土佐くろしお管内3首長とJ A役員との意見交換会』が開催され、須崎市、中土佐町、津野町の各首長とJ A土佐くろしおの組合長をはじめとする関係者27人が参加しました。

農業改良普及課は、市町、J Aおよび県で構成する『J A土佐くろしお水田維持管理対策研究会』で協議してきたJ A出資型法人村営みのりと地域との連携やWCS用稲の導入検討状況、先行して地域との話し合いに取り組んでいる須崎市の事例を報告しました。

参加者からは、WCS用稲の平均単収や発酵期間について質問がありました。

農業改良普及課は今後も、先行取組地域から見えてきた課題等を研究会で協議し、水田維持管理対策を進めていきます。

遮熱資材の効果を比較してみましょう ～J A土佐くろしおにら部会決算総会～



遮熱資材の効果の違いを説明する普及指導員

8月21日、J A土佐くろしお大間出荷場で、令和8園芸年度にら部会決算総会が開催され、生産者19人が参加しました。

農業改良普及課は、遮熱塗布材や細霧装置などの昇温抑制効果を比較した実証の経過報告と熱中症の注意喚起を行いました。

生産者からは、「遮熱資材はどのように活用していくのか、その効果について教えてもらいたい」といった意見がありました。

農業改良普及課は今後も、調査研究を進め、現場で取り組むことができる高温対策について情報を発信していきます。

基本的な栽培技術を確認しましょう ～J A土佐くろしおハウスししとう部会決算総会～



基本的栽培技術を説明する普及職員

8月25日、J A土佐くろしお大間出荷場で令和8園芸年度ハウスししとう部会決算総会が開催され、生産者21人が参加しました。

農業改良普及課は、栽培初期のかん水管理や整枝、病虫害対策、温度管理の基本的栽培技術に加え、SAWACHIの活用方法を説明しました。

生産者からは「経費の高騰が続き、シシトウの栽培を続けることが厳しくなっている」といった声が聞かれ、収量向上に向けた技術支援の必要性が感じられました。

農業改良普及課は今後も、収量および所得アップに向けて、栽培技術の向上を支援していきます。

新規青年農業士と作戦会議 ～須崎管内青年農業士 第1回検討会～



青年農業士と意見交換する
普及指導員

8月27日、須崎農業振興センターにおいて、今年度新たに認定された青年農業士2人と1回目の検討会を行いました。管内の青年農業士は、対象者不在で活動を休止していましたが、新たな認定を受け活動を再開できるようになりました。

農業改良普及課は、活動の引き継ぎができる先輩農家がないことから、直近の県下各ブロックの活動を紹介し、今年度の活動について検討しました。

青年農業士からは、「地元の高校で出前授業に取り組みたい」「同時期に認定された青年農業士のところに現地研修に行きたい」など活発な意見が聞かれました。

農業改良普及課は今後も、新しく活動をはじめた青年農業士の支援を行っていきます。

夏期の尻腐れ果を克服せよ！ ～土佐甘とう生産者交流会 in 津野町～



高温対策と実証経過を
報告する普及職員

8月28日、津野町で「土佐甘とう」生産者交流会が開催され、県内4産地から甘長トウガラシ生産者17人が参加しました。

甘長トウガラシでは、高温時の尻腐れ果被害が深刻であり、現地ほ場で新品種や遮光資材、細霧冷房装置の効果を検討しました。農業改良普及課は、会議の中で新品種の特徴や夏期の出荷規格について報告しました。

生産者からは、「遮光資材についての情報が欲しい」「規格の変更を検討してほしい」といった声がありました。

農業改良普及課は今後も、甘長トウガラシの安定生産のため、生産者や関係機関とともに尻腐れ果対策に取り組んでいきます。

トロトロ層で水稻の雑草対策 ～梶原町実証ほの現地視察会～



トロトロ層の抑草効果を
説明する普及職員

9月7日、須崎地域有機農業推進協議会では、梶原町にある水稻トロトロ層実証ほの現地視察を行い、水稻生産者5人を含む関係者8人が参加しました。

農業改良普及課は、トロトロ層形成用の有機質資材とその処理方法、発生した雑草の種類と量、水稻への影響等について説明しました。

生産者からは、「地域の慣行収量や品質と比較してどうか」「実物の雑草を見ながら説明を聞きたい」といった声がありました。

農業改良普及課は今後も、化学農薬や化学肥料の低減に向けた新たな技術の実証と普及に取り組んでいきます。